

放射線直腸炎による静脈性出血に対する ピュアスタットを用いた止血



医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院
肝胆膵内科部長 内視鏡センター長 消化器病センター長

山本 龍一 先生

- 使用所感**
- ▶ 放射線直腸炎による静脈性出血に有用であった。
 - ▶ 塗布後視野が良好であり、止血が得られているか、確認が良好であった。
 - ▶ 病変部で膨隆を形成するように塗布するのがよい。
 - ▶ 病変部に停滞するので塗布後の止血効果、創傷治癒効果が期待できる。

診断 放射線直腸炎

患者背景 82歳男性
前立腺癌に対する放射線照射後

- 治療内容**
1. 直腸Rbに放射線直腸炎による静脈性出血を確認した (Fig.1, 2)
 2. APC (Argon Plasma Coaguration) プローブ (アムコ) にて凝固止血を行った
 3. 微小出血が持続するためピュアスタット3mLを塗布した (Fig.3, 4)

術後経過 後出血や穿孔などの有害事象は生じなかった
入院加療を要せず、外来帰宅となった



Fig1. 直腸Rbの出血確認



Fig2. 直腸Rbの出血確認



Fig3. ピュアスタットの塗布



Fig4. 止血の確認

Tips

- ▶ 出血に備え、検査室内にピュアスタットを常備し、すぐに使用できる状態にしておく。
- ▶ 1mL、3mL製材の場合、カテーテル (ファインジェット (トップ)) 内に全てのピュアスタットが満たされてしまうため、塗布の際にはピュアスタットシリンジに空気を約5mL吸引し、親指で間欠的に押しつつ塗布する。
- ▶ 塗布の際、病変部にカテーテル先端を軽く押し当てる。
- ▶ ピュアスタット塗布中は、送気送水は控える。



内視鏡センター スタッフの皆様